



レポート／
大手出力会社
設備投資戦略

フジサワ・コーポレーション

SureColor エプソン新型IJP 溶剤・水性両モデル導入 「SC-S80650」「SC-P20050X」レポート

東京都豊島区に本社を構える(株)フジサワ・コーポレーションは、1949年、厚形スレート瓦メーカーとして設立。「あなたの未来を、カタチに。」をコーポレートスローガンに、業務を遂行している。

コマーシャル・イメージング事業部では、交通・屋内外の看板製作施工、商業施設のイベント装飾、展示会の設計・デザイン・製作施工、カーラッピングなど「装飾・サイン・ディスプレイ」を多岐にわたって展開。デザインから施工まで一貫して提供するサービスに強みを発揮する。

昨年4月には、技術部門を結集させた「駒込クリエイティブセンター」(北区中里)を開設。9月、出力サービスのさらなる拡充を図るべく、同

センター内に多色低溶剤機「SC-S80650」と水性顔料インクジェットプリンター (IJP) 「SC-P20050X」を各2台導入した。

エプソン販売(株)は、2012年からサイン業界にターゲット絞った「SureColor (シュアカラー) SC-Sシリーズ」を販売。

溶剤インク系の最新機種である SC-S80650 は、サイン&ディスプレイ業界向け大判 IJP として16年5月に発表した。新開発「UltraChrome GS3 インク with RED」の採用で、広色域・豊かな色表現・光沢感ある高画質を達成。乾燥性も高く、現場目線による出力後の巻取り時間短縮にも配慮している。「PrecisionCore TFP プリントヘッド」や「Epson Wide CMYK

Input Profile」なども搭載され、画質と生産性の両立を実現。「ユーザーニーズを細やかに反映した低溶剤機」と、業界で注目を集めている。

本誌では、エプソン IJP の採用に踏み切ったフジサワ・コーポレーションの事業戦略に着目。澤田剛治代表取締役は、SC-S80650 及び SC-P20050X の採用に至った経緯と決め手、使用感について話を聞いた。



センター内に設置された「SC-P20050X」



駒込クリエイティブセンター

(株)フジサワ・コーポレーション

【企業データ】

設立 / 1949年3月
 資本金 / 5,000万円
 代表 / 澤田剛治
 従業員 / 70人
 所在地 / 東京都豊島区长崎1-10-8
 U R L / <http://www.fujisawa-corp.co.jp>

【営業品目】

大型インクジェット出力/ラムダ、クロミラプリント/屋内外広告、サイン・ディスプレイの製作・加工・施工…他

【主な設備】

溶剤 IJP / UV IJP / 水性 IJP / ラミネーター / ラムダ / クロミラ / カットマシン…他

—SC-S80650 導入の背景

当社が手掛ける案件は屋外広告と商業施設の装飾などがメインになります。溶剤機による出力サービスは、業務の根幹部分です。その上で、生産性と品質の向上を図るにはどのような選択肢があるのか——。設備投資にあたって、市場調査を行ったところ、エプソン機がクオリティと生産性に加え、コストパフォーマンスにも優れているという結論に達しました。実際に導入されているユーザーさんの声も聞かせていただいたのですが、評判はすこぶる良い。IJP印刷の生産性、品質に関して来るべきところまで来たなど。極端な話、他に選択肢はなかったと言える位です。当社の求める水準として、迷うことなく採用を決めました。

—使用後の満足度

導入後、半年以上が経過しましたが、生産性は格段に上がっています。経営的な部分でも、人件費や工場の生産に対する費用などのコスト削減につながっています。保証期間2年というのも有難いことで、満足度は非常に高いです。

出力速度についても、申し分ありません。当社の場合、商業施設や交通広告に用いられる1点モノの製作物が中心となります。これらを短納期で求められるケースが多く、いわゆる“瞬間風速”的な生産性も不可欠要素になってきます。まずはドンと製作、ストップ後、またドンと生産するというように……。自動車に例えれば、最初の加速の大切さでしょうか。その際にも、このマシンの持つスピード感は頼もしい存在です。

写真品質の仕上がりも、かなりのレベルにあるといえます。当社はラボの技術力に自負を持っていますが、ここについてもクオリティの高いマシンが登場してくれたことを嬉しく思います。

インク面では、オレンジと焦げ茶の2色をいかに綺麗に



「SC-S80650」出力物による壁面装飾事例



代表取締役・澤田剛治氏

出せるかに着目してきました。従来、オレンジは退色が早くなる傾向がみられますが、今回のエプソン機では、その点も解消されており、安心して使えます。昨年のハロウィン時には、オレンジを基調とする屋外広告の案件が多々ありましたが、色出しもスムーズに行うことができ、満足しています。廃インクの量が以前使用していたマシンに比べ、大幅に減少したのもコスト面で劇的な変化でした。

—「SC-P20050X」の使用感

一方で、屋内向けのポスター製作などを視野に、SC-S80650と同時に最新水性機「SC-P20050X」も2台導入しました。写真画像を国内の標準品質で提供していくためには、濃度を重視する必要があります。どんなに色が綺麗でも、濃度が出せなければ意味がない。その点も、エプソン機は優れていました。4系統の黒を使っているのも、繊細な色調をハッキリ表現できるのが魅力です。

SC-S80650もそうですが、TFPプリントヘッドによる高速印刷はもはや圧巻です。また、使い勝手の良さも重宝させてもらっています。スピンドルレスなので、オペレーターがメディア交換する際にはとても助かっています。

—今後の展開

様々な分野に向けたチャレンジを模索中です。一つには、ホワイトとメタリックのインクを利用した提案を進めていきたい。これらのインクを溶剤機で使った表現は、UV機とはまた異なったものになるでしょう。エプソン機を有効に活用することで可能性を感じます。エコ対応も含め、次なる進化に非常に興味がありますね。



SC-S80650

インク種別/エコソルベント
出力解像度/最大1440dpi
出力速度/最速18.2㎡/h
(720×720dpi 6pass 出力時)

最大印字幅/1616mm
インク色数/CMYK、LCLM、オレンジ、グレー、レッド、
ホワイトまたはメタリックシルバー
外形寸法/W2620×D880×H1338mm(最小時)
重量/284kg(インクカートリッジ含まず)
標準価格/¥2,200,000(税別)

【エプソンホームページ】<http://epson.jp/surecolor>

【お問い合わせ先】プリンター購入ガイドインフォメーション 050-3155-8100